



【先週 4月4日～4月10日の外食の出来事】

■壺番屋の今期、純利益2倍に 客足回復、宅配伸びる

2022年2月期の連結純利益が前期比2倍の35億円になりそうだと発表した。客単価が比較的高い宅配が伸びるほか、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた客足が戻る。売上高は11%増の489億円の見通し。

■飲食大企業向け支援ファンドを日本政策投資銀行が設立

日本政策投資銀行が、新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な打撃を受けている飲食・宿泊業向けの支援ファンドを設立。時短協力金では損失をカバーできず、影響が特に深刻な大企業へ向けて、危機対応業務を行う。

■吉野家HD、赤字縮小 前期最終75億円の赤字に、仕入れ費削減で

2021年2月期の連結最終損益が75億円の赤字になったようだと発表した。従来予想(90億円の赤字)から赤字幅が縮小する。また、助成金収入を営業外収益に計上したことも業績の押し上げ要因に働いた。

■幸楽苑、29億円融資枠の契約継続 コロナ禍長期化に備え

幸楽苑ホールディングスはコロナ禍の緊急事態宣言に対応して設定した29億円の融資枠を契約期間満了後も継続することにした。当初は2020年6月から1年間の予定だったが、コロナ禍の長期化に備える。

■ハイデイ日高の21年2月期は29億円の最終赤字、コロナ影響

新型コロナウイルス感染症の影響による時短営業や酒類の提供自粛に伴い、既存店売上高は前期比で69.7%に落ち込んだほか、店舗閉鎖や感染症により収益性の低下がみられる店舗について7億1100万円の減損損失を計上。

■ドトール日レスの前期、109億円の最終赤字 特別損失で

2021年2月期の連結最終損益が109億円の赤字になった。従来予想(79億円の赤字)から赤字幅が拡大する。店舗の収益性を見直し、特別損失を約34億円計上した。繰り延べ税金資産を約11億円取り崩したことも響く。

■トリドールHD、経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を取得

トリドールは、4月1日付で経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定事業者」の認定を取得した。同社は、世界中で食体験を通じた感動を届けることを目的に、店舗における顧客の体験価値の最大化に取り組んでいる。

■カルラ、2021年2月期(20年3月～21年2月)の連結業績 減収赤字

2021年2月期 通期の連結業績を発表。売上高52億9400万円(対前年同期比31.6%減)、営業損失5億6600万円(-)、経常損失5億200万円(-)、親会社株主に帰属する当期純損失9億7700万円(-)であった。

■いきなりステーキ、テスト値下げ35店舗に拡大

株式会社ペッパーフードサービスが展開する「いきなりステーキ」で3月22日～4月30日の間、オーダーカットステーキ3種の値下げを10店舗で実施しているが、25店舗を追加して計35店舗とすると発表した。